

※H26年度からスタートした校長通信「その名大口」。3年間で78号を重ねることができました。おつきあいいただいた、生徒・先生方そして保護者の皆様ありがとうございました。創刊のH26.4.10号に記したように、校歌の「……その名大口 その名大口」に刻まれる、先輩達の母校に対する「誇りと愛着」を私たちはしっかり受け継がなければという思いでした。機会あるごとに「チーム大口」と称し、生徒・職員一体となって、「地域に信頼される普通科進学校」そして「誇りと愛着のある学校」創りに邁進してきたつもりです。さつま町や湧水町を含む伊佐になくはならない学校として、「たくましい体、たくましい心、たくましい学力」を育み有為な人材輩出の高校として、これからも発展していくことを願っています。

「伊佐市の現状と課題」についての総合的学習 3/14

伊佐市役所企画政策課の小倉史郎係長に「伊佐市の現状と課題」についての講話をしてもらいました。「成熟社会」における「少子化・高齢化・過疎化」の現状について、伊佐市の人口動態等具体的な数字をあげて話をされました。地方創生に求められている、「ないモノねだりではなく、あるモノを活かす」視点や、地域に誇りを持ち、暮らしを楽しみ、オリジナリティを持って新しい仕組みを創ることが大切と話されました。後輩の高校生に、地元に残るにせよ地元を離れるにせよ、郷土を担い応援することができること。そして、「ふるさとを知り、人と触れあい、自然や文化・風習などを体感する」ことが大切と説き、「都会に対する劣等感ではなく地元に対する自信と誇り」をもって頑張りたいと結ばれました。その後、「もみじ祭り」の総括会を行い、コンシェルジュ・コーディネート班、ステージ班、イベント班、フード班、アート班の各班の発表がありました。



「卒業生の進路体験発表会」 3/16

「全方位の進路指導」を掲げている大口高校。大学（国公立大・私立大）、短大、専門学校、就職の各7名の卒業生に、進路体験を話していただきました。以下は、生徒の感想です。



・今回先輩方の話を聞いて、進路はできるだけ早めに決めないといけないと改めて思いました。また、進学するにしてもしっかり目的をもって進学しないと就職する際にまた悩むことになり、目的なく大学や専門学校に行っても、親がたくさんのお金を使って進学させてもらうのに大変申し訳ないなと思いました。先輩方はみんな、自分のためだけでなく、人のため誰かの役に立

つためなど、いろんな希望をもってすごいなあと思いました。私は最近、助産師という仕事にも興味を持ち始めています。保育士と助産師は進学先なども全く違うので目標を早めに決めて、大学か専門学校か進学先をいろいろ調べ、自分の目標に合ったところに行きたいなあと思いました。（1年女子）

・ 7名の先輩方の話を聞き、とても有意義な時間を過ごすことができました。自分にとって何がきっかけで将来の夢や行きたい大学を決めることになるか分かりません。憧れている大学はあるのですが、もっともっと行きたい大学について調べ、より多くの情報を手に入れる必要があるなあと思いました。自分の苦手科目を克服することが、今日から始めることができる合格への一番の近道だと思います。また、部活動や地域貢献活動に積極的に参加することも大切なことだと思います。今しかできないことに一生懸命取り組むことで、チャンスをつかみ取ることができると思います。自分の夢に向かって、今日から本気で取り組んでいきたいです。(2年男子)



上の写真は、大口ロータリー主催の「チャリティ音楽祭」に出演した大口高校音楽部。東日本大震災の2011年から毎年開催されています。左下は、イオングループが企画した大口高校生プロデュースのお弁当（おしいーサー弁当）を生徒自身が販売している様子。右下は、吉井淳二記念展で吉井淳二賞（高校生部門）をいただいた北園拓真君とその作品（「暮れ空」）。大口高校の正面玄関に飾られています。



「第18回九州高等学校10人制ラグビーフットボール大会」
10人制ラグビー県大会で優勝したラグビー部。3/19・20に宮崎市での九州大会に出場しました。決勝トーナメントには残れなかったものの、大口高校ラグビー部の誇りを胸に力強く戦いました。龍本創矢顧問・貴嶋秀行コーチのもとで、10度目の花園出場の夢をつなぎ、必死に練習しています。15人制で戦えるよう部員を増やし、「古豪復活」で大口高校そして伊佐市を再び元気づけて欲しいものです。



「第2回大口高校旗争奪U-14サッカー大会」 3/18 19
サッカー部顧問古里洋平先生が中心になって、昨年度から始めたサッカー大会。2年目の今年は、近隣中学校やクラブチームの7チームが参加し、2日間にわたり熱戦が繰り広げられました。優勝は、県大会準優勝した大口中央中、準優勝は昨年度優勝した高尾野中学校でした。優勝チームには優勝旗と副賞としてサッカーボール（4位まで進呈）が手渡されました。

